

育種課題の共有を

林木育種センターと打ち合わせ

三月二日(木)局において、森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場(岡山県)と「育種事業打ち合わせ」を実施しました。局から、計画課・森林整備課・森林技術・支援センター・技術普及課が出席し、意見交換等を行い、課題を共有しました。(写真) 主な議題は、

- ・新品種の開発について
- ・エリートツリーの選抜と交雑検定林の設定
- ・早生樹(コウヨウザン)について
- ・マツノサイセンチュウ抵抗品種等
- ・令和二年度次代検定林調査予定箇所
- ・関西育種場で取り組んでいる研究課題等、特に、四国森林管理局管内では、エリートツリーの候補木として、スギ76系統、ヒノキ53系統が決定されたこと等の説明を受けました。



会議では、議題ごとに、出席者から活発な意見や質問(無花粉スギの現状と課題等)が出され、情報の共有を図りました。引き続き、研究課題へ相互の連携協力を確認し、会議を終了しました。

誌上 森林環境教育

なぜタケは速く成長できるの？



日本で見られる大型のタケ、モウソウチク(写真)やマダケは、高さ20m以上に、世界最大のタケ、デンドロカラムス・ギガンテウスは30mにも。これらのタケノコの成長は、非常に速く、最大で1日に1m以上伸び、数ヶ月で大人のタケと同じ大きさまで成長する。

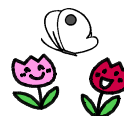
なぜ、タケは他の植物より速く成長できるのか。その秘密は節(ふし)の構造に。植物が成長するのは、発芽後、先端部分の細胞が活発に分裂して大きくなるからで、この部分を成長点と呼ぶ。節構造を持つタケには、先端部分の成長点のほかに、各節のすぐ上を、節に沿ってぐるっと一周する分裂細胞がある。この部分は点ではなく帯状になっているため成長帯と。タケには各節の上に成長帯がある。

つまり細胞分裂する場所が複数ある。通常、モウソウチクなどの大型のタケでは、節の数が60から70個。一節の成長が一日あたりわずかでも、各節が一斉に伸びると、合計で1mにも。実際にはすべての成長帯が一度にのびるわけではないが、それでもタケの成長は十分に速いといえる。

木のびっくり話100(日本木材学会)

4. 1付 異動になりました。

「よろしくお願いします」



技術普及課 企画官(民有林連携)
安藤 暁子
(前 技術普及課 課長補佐)

技術普及課 緑の普及係長
宮崎 隆太
(前 林野庁林政部企画課総務班庶務係長)

「お世話になりました」

計画課森林施業調整官として異動になりました。技術普及課 企画官(民有林連携)在任中は、お世話になりました。

本田 雄二

編集後記

連日、新型コロナウイルスの感染等に関する報道がなされています。このような中、各地でソメイヨシノの開花も。そして新しい年度に。

手洗い・うがいを励行し、体調に留意のうえ、一日一日を大切に過ごしましょう。

今年度も引き続き ご愛読をお願いします。